

チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		公共交通で豊かなまちづくり	八戸市
アイデア名(注2) (公開)	一緒に学ぼうバスのトリセツ		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	はるじいとゆかいななかまたち		
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	6名		
代表者情報			出貝りの
メンバー情報	氏名(公開)	田屋隆誠、泉山陽菜、岸上真緒、五戸李音、松橋希美	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

・八戸市営バスの利用率低下・八戸市民がバスの利用に対して抵抗感や不安を抱いていること

<解決アイデアの内容>

私たちは、課題研究の授業で八戸市が抱える課題について考えた。中でも、八戸市の公共交通機関の利用が少ないということに注目した。近年、八戸市ではバスの利用率低下が進んでいることを知った。また、八戸市では自動車の登録台数が年々増加している。そのため、私たちは自動車を使えない高校生をターゲットにすることにした。

しかし、先輩方が高校生を対象に行ったアンケート結果を見ると、高校生でも通学以外の目的でバスを使う人は少なく、その多くの人が「電車や親の送迎など、ほかの移動手段があるから」と述べていた。このことから、バスに乗ることに対する特別感、付加価値を付ければ、多くの高校生にバスに乗ってもらえるのではないかと考えた。また、いただいた資料によると、「バスの乗降の方法が分からない」、「運賃の払い方が分からない」など、バスのシステムが分からず、不安要素を抱えている人が多いためバスを利用できない人も多くいることが分かった。

これらのことから私たちは、これから開発するアプリの主な機能を二つ考えた。

一つ目は、バスの乗降の流れ、運賃の額、払い方などをイラストや動画で詳しく説明する機能だ。真面目に解説をしても面白くなく、高校生には合わないと思うので、若い人たちが好むように[図 1]のようなゆるキャラのようなデザインにしていきたい。この機能によって、高校生の不安要素が解消できるのではないかと考えた。

[図 1]



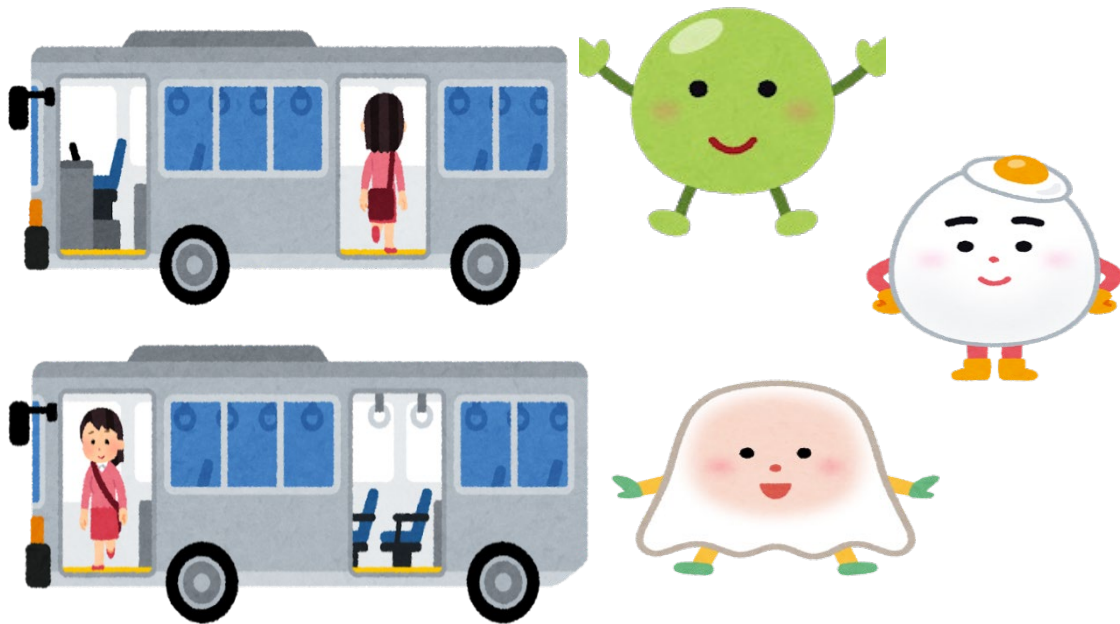
二つ目は、八戸の名所や乗降人数が多いバス停にQRコードを設け、バスに乗りキャラクターを収集する機能だ。「収集」という新たな目的を加えることにより、バスに乗るきっかけができ、利用者の増加が見込める。また、キャラクター

の収集数によって、面白い仕掛けや特典(合体)等もしたいと考えている。キャラクターは、八戸の地域にまつわる話や名産品を基にしたオリジナルのものを作成する。また、さきほどのイラストにもキャラクターを使用するなど可愛いアプリを創れば、楽しみ要素も増え、バスを利用する付加価値もつき、利用者も上がるのではと考えた。

オリジナルキャラクターの例としては、いかずきんずのような八戸で有名な物をモチーフにしたものや、八戸のそれぞれの地域に古くからまつわる昔話や地名の由来をモチーフにし、一部の人が知らないような面白い話をユーザーに伝えるような工夫をしたいと考えている。同時にキャラクター紹介を設け、キャラクターとともにこのような話も知っていただけるようにしていこうと考えている。キャラクターデザインは[図 2]のような若者が興味を引く可愛い工夫する予定だ。

この2つのアイデアにより、「わからないから乗らない」という、心理的な障壁を取りつつ、「収集」という、バスに乗りたくなる目的をつくることで課題解決したい。

[図 2]



バスのシステムの説明 + キャラクター収集

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

なぜバスに乗らない？

- ・十勝バスの社長が地元住民からヒアリング



「ドアが前後に2つあるけど、どこから乗るの？」
 「運賃の払い方は？」
 「整理券って何ですか？」
 「そもそも、どのバスがどこに向かうの？」



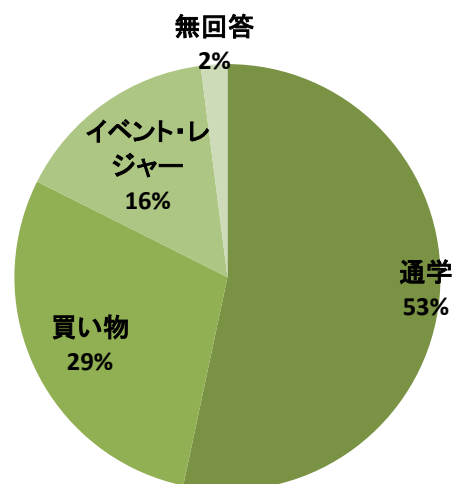
「不便」というよりも「不安」だから利用できない。

引用元：2018年9月 COG アイデアソンでの八戸市の発表資料より

このような不安要素が原因でバスに乗れない人がいることが分かった。これらの要素を解消することによって、バスを安心して利用できる人が増え、それに伴い乗客数も増加するのではないかと考えた。

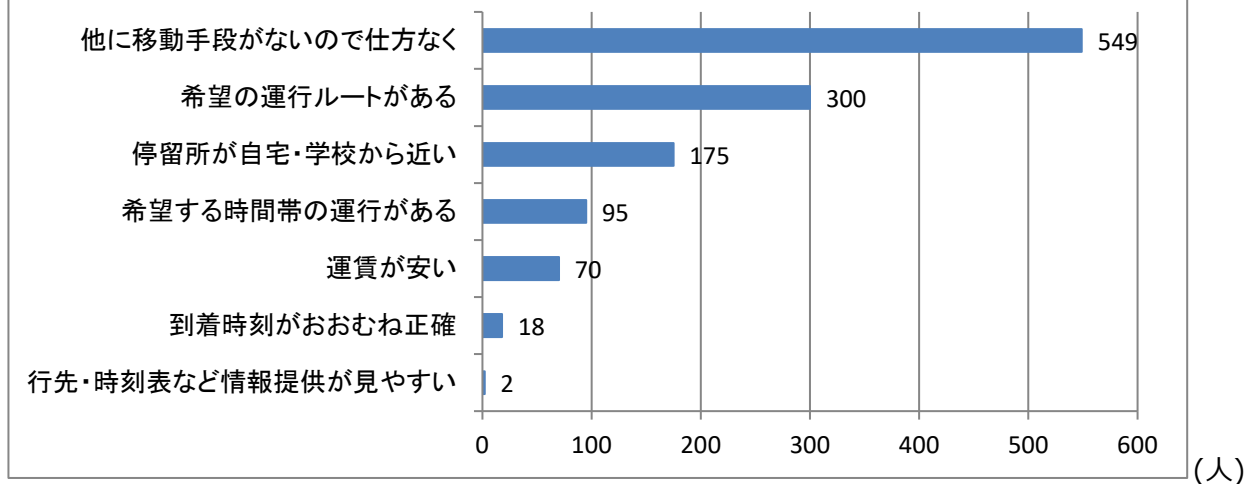
本校が実施した八戸市内の高校三年生を対象にしたアンケートから、バスをよく利用する人の目的の半数以上が通学であることが分かった。通学以外でもバスを利用して貰いたいと考えた。

高校生が市営バスを利用する目的



引用元：八戸市内の高校生を対象にしたアンケート調査の結果（2018年調べ）

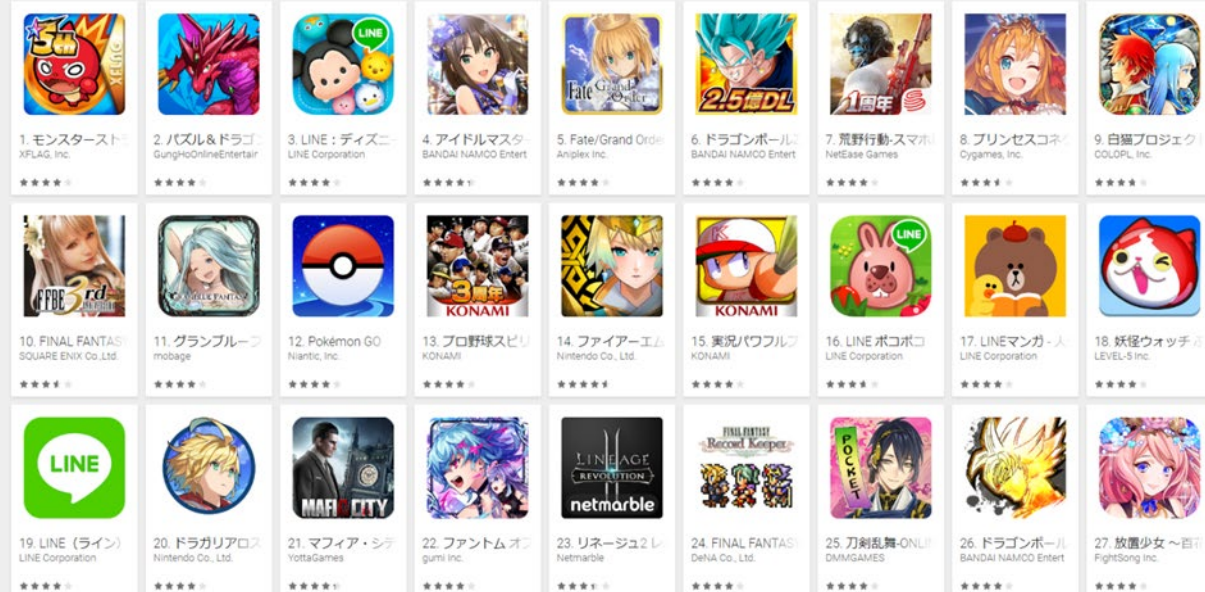
高校生が市営バスを利用する理由



引用元：八戸市内の高校生を対象にしたアンケート調査の結果（2018年調べ）

先ほどと同じアンケートから、バスを利用しない人の理由が「他の移動手段があるから」と答える人が多かった。このことから、バスを利用することへの特別感、付加価値があれば、多くの高校生にバスを利用して貰えるのではないかと考えた。

売上トップの Android アプリ



引用元：売上トップの Android アプリ-Google Play のアプリ

<https://play.google.com/store/apps/collection/topgrossing?hl=ja>（11月7日現在）

人気アプリの上位を見ると、多くがキャラクターを用いていることが分かる。アプリにたくさんの注目を集めるには、キャラクターを起用することが有効だと考えた。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

このアイデアを実現するためには、まずは市民の方々の声を聞き、バスに関するアンケートを取ることが必要だ。

アンケート調査で高校生の方々に聞きたいことは以下のとおりである。

- ・バスを利用するにあたっての不安、疑問
- ・実際に利用した時に感じた不満
- ・過去の利用で生じたトラブル等
- ・好きなキャラクターについて（人物系と動物系のどちらが好まれているのか知るため）
- ・スマートフォンにインストールしているゲームアプリ、興味があるアプリ、知っているアプリなど

そのアンケートを元に、バスのシステムの説明とキャラクター収集の2つの機能の実現に向け活動していく。

<バスのシステムの説明機能の実現に向けて>

- ・バスの乗降の仕方や運賃の払い方などをインターネットや市役所の方に聞いて調べる
- ・説明を分かりやすくするためのイラストや動画を自分たちで作成する

<キャラクター収集機能の実現に向けて>

- ・QRコードを貼るバス停決めとその交渉
- ・キャラクター選択画面や台詞を話す場面などのプログラミング
- ・オリジナルキャラクターの考案、イラストの制作

